常世未来財団
TOKOYO FUTURES FOUNDATION

長く生きることを、
生きる価値のあるものに。

Make Longer Life Worth Living.

2027年4月の設立に向けて、準備を進めています。



■ 財団　目的

不老を含む超長寿社会を、持続可能なものにできるか。

いま起きていること

老化に働きかける研究や、身体の機能を補う技術に、公的・民間の資金が集まっています。薬、臓器の再生・移植、脳と機械をつなぐ技術など、分野ごとに異なる段階で研究や実用化が進んでいます。

見落とされうること

一方で、学ぶ時間、働く期間、家族の関係、暮らしを支えるお金といった社会の仕組みや、老いと死の受けとめ方は、これまでの寿命を前提にしています。寿命がさらに延びたときにどう変えるかを、技術の進展とともに考える必要があります。

財団が取り組むこと

常世未来財団は、長い人生を支える制度と文化のあり方を考え、技術が広がる前から、望ましい社会の選択肢を示します。調査と対話、制度の試案、表現を通じて、その選択肢を具体的に描きます。

> **科学についての注意**
> 現時点では、人で得られた成果は、老化全体を止めたり、寿命を大幅に延ばしたりできたことを示すものではありません。財団は長寿技術の研究開発は行いませんが、研究者との対話を続け、科学の現状を確かめます。

いま検討しておかなければ、長寿社会は望まない未来へ進みかねない。

目指したい未来	避けたい未来
長く生きることを選んだ人も選ばない人も、 自分にとって生きる価値のある時間を持てる。	長い人生を豊かに生きられる人と、 その長寿のために搾取される人とに二極化する。

右は、財団が避けたい社会の姿です。長寿技術の利用が富裕層に限られるとの懸念があり、現在の社会にも所得による寿命の差があります。米国の2013年の意識調査では、寿命を大幅に延ばす治療を富裕層しか利用できないと予想した人が66%でした。また、米国男性の所得上位・下位の各20%では、50歳時点の平均余命の差が、1930年生まれの5.1年から1960年生まれの12.7年へ広がると推計されています。

財団の進め方

科学の現状を確かめる
科学と技術　4ページ
複数のありうる技術を系統に分け、人で何がどこまで確かめられたかを整理する。系統ごとに、ありうる未来と課題を描く。

社会の仕組みを構想する
政策と事業　5〜8ページ
長く生きる人が増えたときに影響を受ける制度を洗い出し、選択肢を比べる。企業や自治体、当事者とともに、制度の試案を現場で検証する。

文化の変化を探る
思想と表現　9〜12ページ
哲学や文学、宗教が長い生をどう考え、語ってきたかを読む。作品の制作も通じて、構想の前提を問い直す。

資金の流れをつくる
基金と助成（構想中）　15ページ
技術の開発だけでなく、技術が社会に及ぼす影響を調べて備える研究と実践にも、資金が流れる仕組みをつくる。

出典　ピュー・リサーチ・センター「Living to 120 and Beyond」2013年。米国科学・工学・医学アカデミー『The Growing Gap in Life Expectancy by Income』2015年。

長く生きる社会を、財団はどう支えていくのか。

寿命の大きな延長や不老が社会に何をもたらすかは、2000年代から、期間を区切った研究や会議で問われてきました。常世未来財団は、この問いを中心に据え、社会と文化の側面から継続的に取り組む財団として、アジアで先駆けとなることを目指します。

100歳以上 107,677人

日本の100歳以上の人の数（2026年9月15日時点）。平均寿命と健康寿命の差は、男性8.49年、女性11.63年です（2022年）。

厚生労働省、2026年9月15日公表（9月25日訂正）。住民基本台帳に基づく。

	科学・技術の側面	社会・文化の側面
老化そのものに介入する範囲（不老を含む）	**老いと死に抗う技術** 老化に働きかける薬、細胞の若返り、臓器の置き換え、脳の記録	常世未来財団が取り組む問い **不老を含む社会の持続可能性** 老いが止まっても、生きる意味を保ち、それを支える文化と制度を続けられるか
これまでの寿命の延長の範囲	**病気を治し健康を保つ技術** 病気の治療、介護の技術、健康寿命を延ばす取り組み	**高齢化に備える社会の研究** 元気に暮らす高齢期、ケア、年金、地域の支え合い

社会・文化の側面に着目した資金と制度

技術の進歩に伴う社会的な課題に、資金や研究の場を設けてきた先例があります。長寿の分野でも、社会への影響を継続して調べる資金の確保が課題です。

米国のヒトゲノム計画

1990年開始。予算の3〜5%を、倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）の研究に配分した。

テンプルトン財団の不死プロジェクト

2012年から3年間。カリフォルニア大学リバーサイド校に約510万ドルを助成し、34件の研究を支えた。

Hevolution財団とNYU Langone Health

2023年10月。長寿研究の倫理を議論するオンライン会議を開いた。

スタンフォード大学長寿センター

2018年9月に「New Map of Life」を始め、長い人生に合わせた社会の構想を分野横断で検討している。

財団が考えたい問い

- どの研究を支えるのか
- 研究費をどう集めるか
- 成果を誰と共有するか

取り組み候補　先行する研究と資金の仕組みを調べ、社会と文化の研究を継続して支えるための条件を整理する。

出典　米国国立ヒトゲノム研究所「ELSI Program Review」。ジョン・テンプルトン財団「Immortality Project Research Review」2018年。Hevolution・NYU会議資料（2023年）。スタンフォード大学長寿センター 年次報告（2018〜19年度）。厚生労働省「百歳以上高齢者等について」2026年9月、「健康寿命の令和4年値について」2024年。

■ 科学　現在地

老いと死に抗う技術は、いまどこまで来ているのか。

老いと死に抗う技術は、身体を保つ、臓器を置き換える、身体や臓器を保存する、脳の信号と記録を使う、の四つの系統に分かれます。それぞれに、いまの到達点と、その先に構想される未来と課題を並べます。

構想　基礎研究　動物実験　臨床試験　承認・実用　主な研究と利用の例。進み方は技術ごとに異なります。

A 身体を保つ

老化に働きかけ、身体の機能を保ち、衰えた機能を戻す。

臨床試験
老化細胞を標的にする薬
塗り薬の4週間の試験で、重大な有害事象なしと発表

臨床試験
細胞の状態を戻す治療
緑内障の人で試験中。結果は企業の中間発表

研究
老いを測る
DNAの変化などから老化の進み方を推定する

B 臓器を置き換える

細胞、動物の臓器、機械などで、傷んだ臓器の働きを補う。

条件・期限付き承認
iPS細胞由来の製品
パーキンソン病と重症心不全の一部の患者が対象

臨床研究
ブタの腎臓の移植
ブタの腎臓を移植した人が、透析なしで271日暮らした

構想
身体全体の置き換え
意識を保ったまま、全身を置き換えた人の例はない

C 身体や臓器を保存する

低温などで変化を抑え、将来の治療や移植につなぐ。

実用
凍結した胚からの出産
約31年保存した胚から子が生まれた（2025年）

動物実験
臓器を冷やして保存する
凍らせずに最長3日保存したブタの腎臓を移植した

蘇生は構想段階
死後に身体を保存する
保存は事業として行われているが、蘇生の方法はない

D 脳の信号と記録を使う

脳の信号で機器を動かし、記録から本人の応答を再現する。

承認（中国）
脳の信号で手の動きを補う
頸髄損傷による四肢麻痺の人の、つかむ動作を補う

基礎研究
神経の配線を写す
ハエの脳と神経索の、約16万7千個の神経細胞の配線図

構想
心を別の媒体に移す
信号の利用や応答の再現とは異なる、まだ実現していない構想

その先に構想される未来と、そこでの課題

	A 身体を保つ	B 臓器を置き換える	C 身体や臓器を保存する	D 脳の信号と記録を使う
構想される未来	加齢で増える病気を、まとめて遅らせる	傷んだ臓器を取り替えながら生き続ける	将来の治療が可能になるまで、保存して待つ	身体が衰えても、人とやりとりできる
そこでの課題	何をもって効いたとするか。誰が使えるか	費用を誰が負い、修理を誰が担い続けるか	誰が保存を管理し、本人と家族の意思をどう扱うか	本人とは何か。データと分身を誰が持つか

「承認」は特定の病気や機能を対象にしたもので、老化そのものへの承認ではありません。胚の保存と、人の全身の保存・回復は異なります。

財団が考えたい問い

人で何が確かめられたか　何が未確認なのか　利用の条件は何か

取り組み候補　対象、研究段階、利用条件を同じフォーマットで整理し、技術ごとの社会的な課題を比較する。

出典　Rubedo Life Sciences（2026年3月）。Life Biosciences（2026年10月）。S. Horvath（Genome Biology、2013年）。PMDA「2025年度承認品目一覧（再生医療等製品）」（2026年3月）。マサチューセッツ総合病院ほか（Lancet、2026年9月）。凍結胚からの出産の報道（2025年）。ATP-Bio（2026年7月）。Alcor（2026年10月閲覧）。中国国家薬品監督管理局（2026年3月）。Cell（2026年9月）。全事例の出典は、裏表紙のQRの一覧に掲載します。

いまの社会の仕組みは、何年生きる人を前提にしているのか。

科学の章では、人で確かめられたことと、まだ構想にとどまることを整理しました。技術が進む速さにかかわらず、長い人生を支える費用やケアの負担を、誰がどのように担うかは、すでに社会の課題になっています。

学ぶ、働く、引退する、財産を渡す、席を譲る。社会の仕組みの多くは、人生の長さがおおよそ決まっていることを前提に、死、年齢、人生の順番を区切りにしてきました。寿命が延びると、その区切りの意味が変わります。主な論点を、三つの仕組みに分けて挙げます。

死をきっかけに動く仕組み

相続税の申告では、遺産を残して亡くなった人のうち、80歳以上が1989年の4割弱から2019年の7割強へ。

01 **資産と相続**　長く持ち続けた資産を、いつ次の世代へ渡すか。

02 **役割と権限**　役職の交代を、死や引退を待たずにどう確保するか。

03 **死後の記録**　故人の記録やAIを誰が残し、誰が止められるか。

年齢で区切る仕組み

IMFの41か国の推計では、2022年の70歳は、認知機能で2000年の53歳に相当する。

04 **政治と代表**　世代ごとの声を、意思決定にどう生かすか。

05 **年金と保障**　働く期間が変わるとき、生涯の所得をどう支えるか。

06 **仕事と引退**　働くか休むかを本人が選ぶには、何が必要か。

人生の順番に沿った仕組み

同居の主な介護者は、男性の75.0%、女性の76.5%が60歳以上。

07 **学びと転身**　学ぶ時間と費用を、生涯にわたってどう確保するか。

08 **医療と意思**　技術やケアを選ぶ本人の意思を、どう支えるか。

09 **ケアと住まい**　家族や身体が変わっても、ケアと住まいを選べるか。

その前提は、すでに動いている

54.9 人から 80.0 人へ

20〜64歳100人あたりの65歳以上（日本、2024年の値と2054年の推計）。この指標も65歳という年齢で区切っている。

日本と韓国 だけ

年金を受け取る年齢より前の定年を、民間と公的部門の両方で認めているOECD加盟国。

三つ の想定される寿命の延び方

人生全体が延びるか。元気な時期が延びるか。衰えて過ごす時期が縮むか。それしだいで年金も相続も介護も変わる。

財団が考えたい問い

- どの区切りから見直すか
- 優先順位を誰と決めるか
- 論点どうしはどう関わるか

取り組み候補　当事者や専門家と論点の優先順位を検討し、寿命の延長が暮らしと制度に及ぼす影響を調べる。

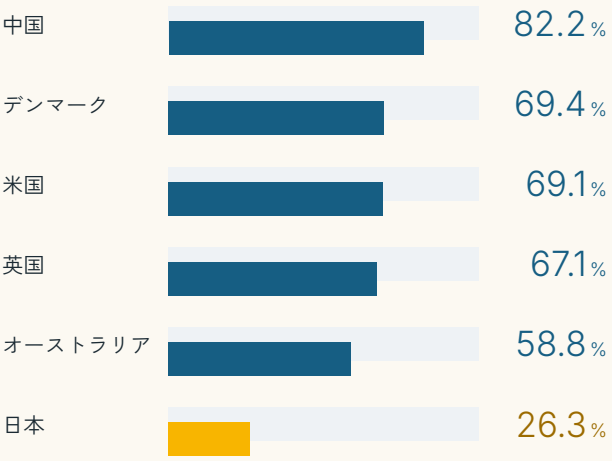
出典　政府税制調査会 専門家会合資料（2022年）。IMF『世界経済見通し』2025年4月号第2章。OECD『図表でみる年金2025』。米国大統領生命倫理評議会『治療を超えて』2003年。内閣府『令和8年版高齢社会白書』（国民生活基礎調査2022年）。論点の整理は、英国政府科学局、WHO、OECD、世界経済フォーラム、ミルケン研究所、スタンフォード大学長寿センター、全米医学アカデミーの報告書と『Law and the 100-Year Life』（2025年）を参照。

日本人は、
長く生きたいと思っているのか。

100歳まで生きたいと答えた人は、日本では約4人に1人で、比較した6か国の中で突出して低い割合でした。高齢化が最も進んだ国で長寿の科学が進むとき、生きたいと思える長い生をどう可能にするかを、日本は考えなければなりません。

国ごとの比較

「人生100年時代において、あなたは100歳まで生きたいと思いますか？」に、そう思うと答えた人（20〜70代、2025年2月）



調査の概要
博報堂100年生活者研究所「100年生活者調査」。インターネット調査。20〜70代で、日本2,400人、ほかの5か国は各600人。日本の値は2022年の26.6%からほぼ変わっていません。

高齢者本人は、どう語るか

国内4地域の77〜81歳550人に、100歳まで生きたいかを尋ねた研究（2019年）

28.2% 100歳まで生きたいと答えた人

100歳まで生きたくないと答えた理由で最も多く語られたのは、健康を失うことへの不安と、家族に迷惑をかけたくないという思いでした。生きたいと答えた理由では、やりたいことがあること、孫の成長や社会の変化を見たいという思いが多く、「健康でいられるなら」という条件つきの声も目立ちました。

調査の概要
安元ほか。割合は回答に欠けのない451人、理由は自由記述に答えた542人の分析。理由は自由記述の分類（生きたくない668件、生きたい234件）。全国を代表する調査ではありません。

二つの調査は対象も方法も異なり、割合を直接比べることはできません。国内の高齢者の回答には、健康や家族の負担への不安と、続けたい活動や関係が表れています。財団は、これらを長い人生を支える条件を検討する手がかりにします。

財団が考えたい問い

- 希望寿命は条件で変わるか
- 負担の不安はどこから来るか
- 問い方で答えは変わるか

取り組み候補　既存調査の対象と質問を比較し、長寿への希望とためらいを捉える調査項目を検討する。

出典　安元佐織ほか「Japanese older people are not willing to live long」『International Journal of Ageing and Later Life』2026年（理由の分類はTable 2・3）。博報堂100年生活者研究所「100年生活者調査」2025年。

どんな条件があれば、長く生きたいと思えるのか。

架空の未来の場面

寿命が延び、80代まで働く人が珍しくない社会。60歳のAさんは、90代の親を介護しながら働く。同年代の友人は親の介護を訪問サービスに任せ、会社の休暇と国の給付で学び直したが、Aさんには介護の支えも休暇もない。

長く生きる本人にも、支える家族にも、暮らしを続ける見通しが必要です。健康、ケア、仕事と学びの三つから、必要な支援と生活を支える収入を考えます。働くか休むかを選べることも、大切な条件です。

健康

健康を失うことへの不安

いまの日本

健康寿命は男性72.57年、女性75.45年。平均寿命との差は男性8.49年、女性11.63年（2022年）

見えている課題

健康を失っても暮らしを続けられるよう、治療と生活の支援を整える

ケア

家族に負担が集中する不安

いまの日本

介護や看護を理由に仕事を辞めた人は約10.6万人。うち女性が75.3%（2021年10月～2022年9月）

見えている課題

ケアの時間と費用、離職による収入の減少を、家族だけに負わせない

仕事と学び

暮らせる収入を得られない不安

いまの日本

収入を伴う仕事をしたい65歳以上は39.0%。その人たちの理由の最多は「収入がほしいから」（48.2%）

見えている課題

学ぶ時間と費用、休む間の生活費、学んだあとの賃金を確保する

教育訓練休暇のある企業　5.7%

教育訓練のための休暇を設けている企業の割合（対象産業の常用労働者30人以上。有給・無給、短期・長期を含む。2025年）。2025年10月開始の教育訓練休暇給付金には、会社の規則に基づく連続30日以上の無給休暇などの条件があり、会社に制度がなければ使えません。

厚生労働省「令和7年度能力開発基本調査」2026年、「教育訓練休暇給付金」2025年。

健康で働けても、暮らしを支える収入が得られるとは限りません。学ぶ時間と費用、仕事の条件、ケアと生活の支援を合わせて考え、本人も家族も望む暮らしを続けられる条件を探ります。

財団が考えたい問い

- 負担は誰に集中するか
- 必要なケアや支援は届くか
- 学びと仕事を続けられるか

取り組み候補　生活条件の違いを調べ、学ぶ時間と費用、賃金と生活保障、ケアの支援を合わせた政策を検討する。

出典　厚生労働省「健康寿命の令和4年値について」2024年、「教育訓練休暇給付金」2025年。内閣府『令和8年版高齢社会白書』（介護・看護による離職は2021年10月～2022年9月、仕事の希望は2025年の調査、65歳以上）。厚生労働省「令和7年度能力開発基本調査」2026年（企業調査。常用労働者30人以上の企業、有給・無給の休暇を含む）。

財産や権限は、
どのように委譲していけるのか。

架空の未来の場面

当選12回、90歳の議員。健康で経験も豊かだが、地元では次の世代の候補が、引退を待ち続けている。同じ町の会社では、95歳の創業者が株式と決定権を持ち続け、70歳の子は一度も経営を任されていない。

財産と権限では、受け渡しの仕組みが違います。死亡時の相続に頼ると、長寿化によって受け渡しが遅くなる可能性がありますが、生きているうちに渡す方法もあります。役職や議席の交代には、任期や選挙などの規則があります。ただし、財産や権限の継承、医療費の負担をめぐる議論は、高齢者に「退場せよ」という言外のメッセージを与えかねません。年齢を理由に人を一括りにし、世代間の対立をあおるエイジズムに注意が必要です。財団は、長く生きることを妨げずに、次の人の機会も確保する仕組みを考えます。

相続が起きる時期

遺産を受け取る年齢、遺産を残す年齢

約30歳 から 約50歳 へ

フランスでは、遺産を受け取る人の平均年齢が、20世紀初めの約30歳から約50歳に（2021年の報告）。日本では、遺産を残して亡くなった人のうち80歳以上が、1989年の38.9%から2019年の71.6%へ（相続税の申告）。

意思決定者の年齢

日本の企業と国会

60.8 歳

日本の社長の平均年齢（2025年）。衆議院議員のうち40歳以下は9.7%（2026年の選挙後）で、世界の約19%（2025年7月時点）を下回る。年齢構成の高さが、そのまま経営や政策の偏りを意味するわけではない。

備え方の例

生きているうちに渡す

相続を待たずに財産を渡す。
ただし効き目は限られ、
不公平を固定しうる面もある。

交代の規則を見直す

任期、被選挙年齢、若い世代の枠。
ただし年齢の線引きが、
固定観念を強めうるとの反論もある。

介護への貢献を評価する

寄与分に加え、相続人でない親族も、
無償の介護で財産の維持・増加に
特別に貢献すれば金銭を請求できる。

財団が考えたい問い

- 財産をいつ誰に渡すか
- 役職交代をどう確保するか
- 経験と世代交代は両立するか

取り組み候補　財産と権限を分けて、受け渡しの時期と方法を調べ、各制度の効果と不利益を比較する。

出典　フランス経済分析評議会（CAE）『相続を考え直す』2021年。裁判所「特別の寄与に関する処分調停」。帝国データバンク「全国社長年齢分析調査」2026年2月。IPU報告・Parline（2026年。世界は全議院計）。『Law and the 100-Year Life』2025年（シタラマン、コーン）。政府税制調査会 相続税・贈与税専門家会合 第2回資料5（2022年）。国連人権理事会 独立専門家報告（A/HRC/48/53、2021年）。欧州連合基本権庁『Shifting perceptions』2018年。

人の生が続く社会を、どのように描けるのか。

社会の章では、いまの制度から、長く生きるための条件と、財産や権限を渡す仕組みを見ました。文化の章ではまず、研究者が描いた未来像から、制度や技術の選び方で暮らしがどう変わるかを比べ、そのあと物語と思想に進みます。

ヘルシンキ大学のジョシュア・ウルタード・ウルタードは、死の克服だけでなく、死後の記憶や自然への還帰も含めて、人の生が続く社会の未来像を六つに整理しました。

未来像	死への構え	描かれる社会	支える組織・制度・場所	論文が指摘する負担・格差
技術で人のあり方を変える	克服する	心の連続を保ったまま、身体を置き換えて死を先送りする	テクノロジー企業と研究所	高価な技術のため、富裕層に限られうる
生物学的に寿命を延ばす	克服する	老化を治療の対象とし、身体の寿命そのものを延ばそうとする	大学、研究所、製薬企業	払える人の日々の儀礼になり、公的医療が損なわれるおそれ
死後にこの世へ戻ってくる	一部で克服する	来世の信仰と科学が結びつき、遺体を保存して将来の復活を試みる	研究所と宗教組織	蘇生の対象が、影響力のある人に限られうる
デジタルで本人を再現する	受け入れる	故人のデータからなる身体をAIが動かし、家族や組織に加わり続ける	テクノロジー企業	死者が商品になるおそれ。別の論文は企業への依存も指摘
追悼と記憶の中で生き続ける	受け入れる	子孫や作品を通じて象徴的に生き続け、社会が死者を記憶する	公共の記念碑、追憶の委員会	格差について詳述なし
自然や宇宙と一体になる	自然の循環として受けとめる	死者を自然に還し、生態系の循環の中で生き続けると考える	法で守られた自然の聖域	格差について詳述なし

財団が検討したい社会の姿

この研究が描く生物学的な寿命延長には、利用できる人が限られるという懸念があります。財団は、長く生きるための支えに誰もがアクセスでき、技術を使わない選択も尊重され、負担が特定の人に集中しない社会を検討します。

財団が考えたい問い

- 利益と負担は誰に偏るか
- 生き方を誰が決めるか
- 異なる選択をどう尊重するか

取り組み候補　六つの未来像の前提と制度を比較し、公平な利用と選択の尊重を両立する社会の案を検討する。

出典　J. Hurtado Hurtado「Envisioning postmortal futures: six archetypes on future societal approaches to seeking immortality」『Mortality』2022年オンライン公開、2024年巻号。同「Towards a postmortal society of virtualised ancestors?」2021年オンライン公開、2023年巻号。同「Exploited in immortality」2023年オンライン公開、2024年巻号。面接は2020〜21年、メキシコ国籍の18人。「格差について詳述なし」は、問題がないことを意味しません。

物語は、長い生の
何を問題にしてきたのか。

長い生への願いと不安は、物語の中でも描かれてきました。誰が長く生き、その周囲で何が起きるかによって物語が描く問題は変わり、「長く生きるのは不幸だ」という一つの結論には収まりません。

作品	あらすじ	誰が長く生きるか	誰に何が起きるか	結末・現在の展開
ガリヴァー旅行記 スウィフト　1726年	旅先の国で、死なずに老い続ける人々の暮らしを知る	死なずに老い続ける少数（ストラルドブラグ）	老いの苦しみが続き、社会は財産と権利を取り上げる	80歳で法的に死者として扱われる
マクロプロスの処方箋 チャペック（戯曲）　1922年	不老の薬で300年以上を若いまま生きた女性が、薬を飲み直すかを迫られる	薬の効力が続く間、若さを保つエリナ	長い年月に倦み、何事にも心が動かなくなる	薬を飲み直すことを拒む
人はすべて死す ボーヴォワール　1946年	不死の薬を飲んだ男が600年を生き、何をしても世界がよくならないことを知る	不死の薬を飲んだフォスカ	愛する人を見送り続け、情熱を失っていく	死ねないまま生き続ける
八百比丘尼の伝承 若狭など各地	人魚の肉を食べた娘が年を取らなくなり、尼となって各地をめぐる	老いなくなった娘	夫や知り合いに次々と先立たれる	若狭では、八百歳で洞窟に入定したと伝えられる
わたしを離さないで カズオ・イシグロ　2005年	臓器の「提供者」と、その世話をする「介護人」の生と関係を描く	臓器を受け取る外の社会	若い提供者が、臓器を提供し続ける	提供者は、提供を逃れられない
葬送のフリーレン 山田鐘人・アベツカサ 2020年〜	長命のエルフが、人間の仲間との別れを経て、人を知ろうと旅をする	人間より長命のエルフ	仲間との死別のあと、後悔と向き合う	人を知る旅を続ける（連載中）

老いるか、死ぬか

	死にうる	死なない
老いない	**老いないが、死にうる生** エリナ（マクロプロスの処方箋）	**老いず死なない生** フォスカ（人はすべて死す）
老いる	**いまの私たちの生** 長寿は、この箱の中で年数を延ばす	**老いて死なない生** ストラルドブラグ（ガリヴァー旅行記）

財団が考えたい問い

- 長寿を得るのは誰か
- 犠牲になるのは誰か
- 支える側は描かれるか

取り組み候補　作品を、誰が長く生き、誰に何が起き、どう終わるかの三軸で比較し、描かれにくい経験を整理する。

出典　冨樫晃『口承文芸研究』45号、2022年（八百比丘尼の伝承、若狭小浜の空印寺の略縁起ほか）。作品の年は初出。マクロプロスの処方箋はチャペックの戯曲による（ヤナーチェクのオペラ版とは結末が異なる）。

人が願ってきた永遠とは、何が続くことなのか。

物語に描かれる長い生は、一様ではありません。続いてほしいものも、身体の生命だけでなく、魂や他者とのつながりなど、人によって異なります。海外と日本で、それがどう考えられてきたかを並べます。

ケイヴの四つの分類

哲学者スティーヴン・ケイヴは『Immortality』（2012年、邦訳2021年）で、古今東西の不死を求める物語を四つの型にまとめた。

生き延びる
身体の死を避け、いまの生を続けようとする

復活する
いったん死を迎えた人の、復活を願う

魂として続く
身体が失われても、魂は続くと考える

遺産を残す
子や作品や名声を通して、何かを残す

日本の著作に見る複数の考え方

日本の著作にも、生命の連続の分類、死者と生者の関係、周囲の人との出来事としての死を考える議論がある。

岸本英夫「生死観四態」（1948年）
限りない生命の捉え方を、身体を生かし続ける、死後の生命を信じる、子孫や作品に託す、今に永遠を感じる、の四つに分けた。

柳田國男『先祖の話』（1946年）
死者は遠くへ行かず、祖霊として家を見守り続けると述べた。しかし佐藤弘夫は、死者観が時代ごとに変わってきたと示した。

鷲田清一、小松美彦
死は本人だけの出来事ではなく、残された人が「死なれる」ものでもあり、周りの人とのあいだで起きると論じた。

いまの日本では

47%
死後の生が「確かに・おそらくある」と答えた人（2024年）

79%
この1年に、祖先のために線香を焚いた人（2023年）。
宗教を持たない人でも74%

宗教を持たない人でも、多くが祖先を祀っています。続いてほしいものは、身体や魂だけでなく、亡くなった人との関わりでもあります。

財団が考えたい問い

- 続いてほしいものは何か
- 他者との関係をどう見るか
- 違う死生観を尊重できるか

取り組み候補　身体、記憶、関係を分けて国内外の思想を読み、制度が前提にする人の捉え方を整理する。

出典　S. ケイヴ『ケンブリッジ大学・人気哲学者の「不死」の講義』柴田裕之訳、日経BP、2021年。岸本英夫「生死観四態」1948年（『死を見つめる心』講談社 所収）。柳田國男『先祖の話』1946年。佐藤弘夫『死者のゆくえ』2008年。鷲田清一『死なないでいる理由』2002年。小松美彦『死は共鳴する』1996年。ピュー・リサーチ・センター「Believing in Spirits and Life After Death Is Common Around the World」2025年、「Religion and Spirituality in East Asian Societies」2024年。

終わらない生は、望ましいものなのか。

死によって何が失われるのか、終わらない生に価値はあるのかを、哲学者たちは異なる立場から論じてきました。寿命を延ばす研究が進むいま、主張とその理由を比べながら、生きる価値とは何かを考えます。

死によって、何が失われるのか。

エピクロスは、死んだとき私はいないので、死は害にならないと論じた。ネーゲルは、生きていれば得られた善を奪うから、死は悪いと論じた。ただし、死が悪いことから、すぐに延命すべきとは言えない。

終わらない生は、退屈なのか。

ウィリアムズは、人格を保ったまま終わりなく生きれば、退屈は避けられないと論じた。フィッシャーは、繰り返し味わえる喜びに価値を見た。争点は、老いの苦痛がなくても生き続ける価値があるかである。

寿命を延ばすことは、どう評価できるのか。

ボストロムは、老化の克服を急ぐべき課題とした。カスとヨナスは、死すべき定めに価値を見た。ヨナスは、早すぎる死と戦うことは否定しない。早すぎる死を防ぐことと、限りない延命は、分けて考える必要がある。

自分が死んだあとの人類は、なぜ大切なのか。

シェフラーは、自分の死後も人々が続くという見通しが、研究や子育てなど、いまの営みに意味を与えていると論じた。自分が生き続けることだけでなく、人々が続く見通しが意味を支えている。

「もう十分に生きた」という思い

哲学の論争は、終わらない生に価値があるかを問います。けれども、いまを生きる人にとっては、自分がいつまで生きたいかという問いでもあります。オランダの国の委託調査（2020年）は、重い病気がなくても死を望み続ける55歳以上の人々を調べ、生きたい気持ちを支える要因として、自立、住まいの心地よさ、自由、ユーモアと楽しみ、誰かの役に立てること、他者からの敬意を挙げました。この調査は、生きたい思いと日々の暮らしとの関わりを示しています。財団は、こうした条件を誰もが得られ、6ページで見た「家族に迷惑をかけたくない」という思いで、生きたい気持ちが狭められない社会を目指します。

財団が考えたい問い

- 生の延長の価値は何か
- 価値は何に左右されるか
- 後の世代への責任は何か

取り組み候補　延命をめぐる賛否の前提を比べ、政策判断で意見が分かれる点を整理する。

出典　エピクロス「メノイケウス宛の手紙」。T. ネーゲル「死」1970年。B. ウィリアムズ「マクロプロス事件」1973年。J. M. フィッシャー 1994年。N. ボストロム 2005年。L. カス 2001年。H. ヨナス 1992年。S. シェフラー『死と後世』2023年。オランダ保健・福祉・スポーツ省 PERSPECTIEF 調査の送付書簡 2020年。

発起人も、
長く生きたいと願うひとりです。



下山 明彦
発起人

アーティスト、株式会社Senjin Holdings代表取締役。Forbes 30 UNDER 30 JAPAN 2025選出。東京大学在学中にメディア事業を起業し、売却したのち、東京藝術大学大学院を修了。現在は慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科の博士課程に在籍。Senjin Holdingsでは、ロンジェビティ（長寿）に関わる事業への投資と経営に携わる。アーティストとしては生と死を捉え直す作品を毎年発表し、2025年の大阪・関西万博ではASEANパビリオンで作品を展示した。

この世界の美しさを、感じ続けたい。

発起人の下山は、人生を楽しみ、できるだけ多くのことを経験したいと願ってきました。永遠に生きられるなら、やってみたいことは尽きません。同時に、いつ死んでもよいと思える日々を生きたいとも考えています。下山にとって、この二つは矛盾しません。けれども、長く生きられることと、その時間を望むように生きられることは同じではありません。

老いを受け入れたい人もいれば、使いたい技術に手が届かない人、日々のケアを必要とする人もいます。役割や居場所を失わず、次に生まれる人の機会も守れる社会を、どうつくるのか。下山自身も、この問いの当事者のひとりです。だからこそ、長く生きたいという願いを、財団で多くの人とともに考える問いにしました。

生と死をめぐる作品　下山の誕生日で、花まつりの日でもある4月8日に毎年発表



2023 **umaru**

土に埋めた箱の中で、夜から朝まで過ごす。



2024 **暗闇生活**

光のない部屋の中で、訪れる人と声を交わす。



2025 **分霊**

自分の顔の彫刻を作り、自分の手で壊せるか試す。



2026 **Senjin Verse**

来場者の分身どうしがデジタル空間で語り合う。

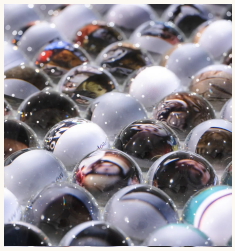
共同体を軸にした制作



響環

2024年　山形県西川町と協働
下山明彦、神谷遼（ALT）

町の人々に聞き取った思いや願いを刻み、共同体の未来を象徴する作品として、町とともに制作した。



one

2024年　ASEAN-Japanと協働
下山明彦、神谷遼（ALT）

日本とASEANの対話から生まれた作品。2025年、大阪・関西万博のASEANパビリオンで展示した。

2027年4月の設立に向けて、準備を進めています。

設立までの道のり

2026年11月4日
財団の構想を初めて発表し、
設立への準備を本格的に始める

2026年冬〜2027年春
研究者や実践者と議論を重ね、
最初に取り組む問いを絞り込む

2027年4月
法人の設立と第1回年次報告会を
目指し、取り組む課題を社会に示す

最初の公開の場として

ALT+ Longevity Salon Day 0

2026年11月4日（水）13:00〜17:00 開催　日本経済新聞社 東京本社 2F SPACE NIO

主催　日本経済新聞社 メディアビジネス（日経ロンジェビティプロジェクト）
企画協力　常世未来財団（設立準備中）　特別協力　株式会社Senjin Holdings



対談　制度と教育
鈴木 寛さん
東京大学教授
慶應義塾大学特任教授



講演　科学の現在地
高橋 祥子さん
TAZ Inc. 代表取締役社長
ジーンクエスト創業者



対談　死生観と文化
島田 裕巳さん
作家
宗教学者

常世未来財団
TOKOYO FUTURES FOUNDATION

名称について

財団名は、老いも死もない理想郷の常世に由来します。老いや死が遠のいた未来に、何を望むか。その問いを名に込めました。英語名のFuturesは複数形です。未来学（futures studies）では、未来は一つではないとして複数形で表します。

ロゴマークについて

常世の国から、山吹色の実をのせた舟がこちらへ渡ってくる姿を表しています。舟の実は、田道間守（たじまもり）が常世の国から持ち帰ったと伝わる非時香菓（ときじくのかくのこのみ）を表します。『古事記』には、これが橘のことだと記されています。

設立準備の体制



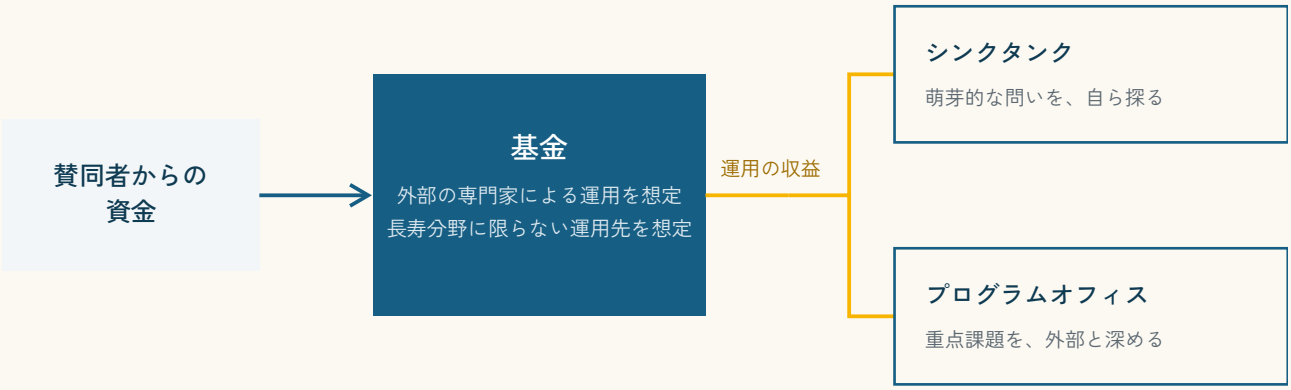
下山 明彦　発起人
アーティスト、株式会社Senjin Holdings代表取締役。Forbes 30 UNDER 30 JAPAN 2025選出。東京大学在学中に起業し、東京藝術大学大学院を修了。生と死を主題とした作品を毎年発表。



中川 瑛　設立準備事務局長
株式会社変容資源研究所代表取締役所長。英国エディンバラ大学大学院修士課程修了（Science and Technology in Society）。科学技術政策における市民参加とスペキュラティブデザインを研究。

財団の活動を、基金が長く支えていきます。

財団は、自ら問いを探究するシンクタンクと、外部の研究や実践を資金で支えるプログラムオフィスの二つの機能を持ちます。まだ十分に調べられていない問いには自ら取り組み、必要性が見えてきた研究や実践には、外部の担い手と連携して資金を届けます。初年度の活動資金を募り、外部の専門家が運用する基金も構想しています。



図は基金による将来の資金の流れの構想です。資金の受け入れ方、運用方針、支援先の決め方は検討中です。

設立まで

研究者や実践者と議論を重ね、財団が取り組む問いを絞り込みます。2027年4月の設立にあわせて、シンクタンクとプログラムオフィスとして取り組む課題を社会に示すことを目指します。設立後は、次のような形で成果を公開することを考えています。

調査の報告
国内外の研究と実態を調べる

制度の試案
選択肢と効果、不利益を示す

未来の描写
暮らしを物語や作品で描く

対話の記録
議論を記録して公開する

資金をご提供くださる方に、運用益を分配することは想定していません。調査結果、計画の変更とその理由、資金の使途と成果を公開します。財団の活動は株式会社Senjin Holdingsの事業と分けて進め、研究内容と公表の独立性を守る規程を検討しています（設立準備の事務の一部は現在、同社が担っています）。

協力者を募っています

関心のある課題と、調査・紹介・資金のうち協力できそうなことを、設立準備事務局にお知らせください。連絡先は裏表紙にあります。

課題を調べる
研究や実務の経験を生かし、
具体的な課題をともに検討する。

人々をつなぐ
関心を持つ人や現場を紹介し、
協力の可能性をともに探る。

資金で支える
設立準備や調査、制作に、
資金を提供する。

常世未来財団

TOKOYO FUTURES FOUNDATION

Make Longer Life Worth Living.

出典の一覧と更新情報

この冊子で参照した資料の一覧と原文へのリンク、訂正の履歴を掲載します。

tokoyo-futures.org/publications/pamphlet-2026-11

常世未来財団（設立準備中）　設立準備事務局　info@tokoyo-futures.org

2026年11月 初版（2026年10月28日 改訂）